特集

春らんまん！ 安芸から届く花だより

県内で栽培される花きは、温暖多照の気候や高い園芸技術により全国トップレベルの品質で、東西の沿岸部に広がる平野を中心に冬春出荷を主体とした生産が行われています。花の栽培が盛んな安芸地区から、芸西村が世界へ誇る花「オキシペタラム」をはじめ、さまざまな花の魅力を紹介します。

トルコギキョウ

【出荷時期】11月中旬～6月中下旬
【主な出荷先】関西

管内で 11 戸が生産しています。ホワイト、ライトピンク、ラベンダーなど花色も豊か。バラ咲きやフリンジ咲きなど多品種での栽培が盛んで、県内生産量の約半数を担います。しっかりとした茎やボリューム感は華やかさを際立たせ、花束にも多く使われます。

ユリ

【出荷時期】9月中旬～6月末
【主な出荷先】関東・関西

花卉部安芸支部のユリ生産者5戸が413アールで生産しています。四方に花開く大輪の優雅さに加え、高貴な香りを放つユリ。県産ユリは高品質で花持ちが良く、全ての蕾が開花するように作られる栽培技術の高さも魅力です。県内では200種類以上の品種が栽培され、多種多様な花形や単色はもちろん、グラデーション豊かなものなど花色もさまざまです。

花育活動として、同支部員と地元小学生が育てたユリ。→

安芸地区から全国の市場へ

安芸地区管内でも特に花き栽培が盛んな芸西村。芸西集出荷場には日曜・火曜・木曜の週3日の早朝、生産者が花きを持ち込みます。各部会で生産された花きは個選共販出荷※が主ですが、少量出荷のものや品質に差が出やすいトルコギキョウなどは個選個販※出荷も行います。

芸西集出荷場では全国に先駆けて、湿式・縦箱・空輸での出荷を開始。花の切り口を水などに浸し吸水できる状態で湿度を保持し、花本来の生育状況に近い直立状態での縦箱輸送により鮮度を維持。北海道から九州まで全国各地を空の便でつなぎます。

※個選共販…基準規格をもとに生産者個人が選別し、JAで共同販売を行う。
※個選個販…生産者個人が選別し、JAが委託販売を行う。

市場名のスタンプ

ユーコミス

【出荷時期】6月
【主な出荷先】関西

露地で栽培するアフリカ原産のヒヤシンス科で、花姿から「パイナップルリリー」とも呼ばれています。花色はホワイトやラベンダー、ピンクなどがあり、芸西村ではホワイトが栽培されています。開花時の6月頃には、太い茎が真っすぐに伸び、下から順に多数の花が咲き始めます。全てが花開くと茎は60cmほど、花の部分は 10～20cm の長さになります。

ガイミアリリー

【出荷時期】4～5月
【主な出荷先】関東

２人の生産者が露地で栽培する、スケールの大きさが特長のオーストラリア原産の花。開花時には４m～６mほどの高さになり、先端に直径10cmほどのトランペット型の花を咲かせます。剣状の葉をつけ、開花までは３～４年かかるとされ、市場には滅多に出回らない希少な花です。本来は６月頃に開花しますが、温暖な芸西村では４～5月頃に開花。花蜜が多く甘い香りを放ち、20輪ほどがひとまとまりに花開く圧倒的な存在感を持っています。

生産者の高品質への意識が市場に対しても強みになります

安芸営農経済センター
芸西集出荷場　花き担当
山内一輝さん

日々市場から得るさまざまな情報をもとに、生産者とも現地検討会などで常に情報共有することで生産現場の現状と市況を把握し、意識的に早めの出荷販売を行うことで単価向上に努めています。

市場を訪問すると、「品質が高く、手をかけていることが分かる」と抜群の評価をいただいており、生産者の高品質への意識から取引に安心感を持ってくれていることを実感します。出荷調整などで販売が落ち込んだコロナ禍を経て、徐々に市況も回復傾向にあります。今後は生産者に向けても「こんな品目があって売れ行きがいいので作ってみませんか」というような提案もしていき、さらに取扱品目を増やしていけたらと思います。

午前6時頃までに生産者が持ち込んだ花きが入った湿式縦箱を、全国の主要市場ごとに仕分けます。主要市場から全国各地へ。

品目に応じて30～50本単位で箱詰め。

生産者とも常に情報共有を行う山内さん㊧。丹精込めて栽培された花に責任を持って、市場取引を行います。

午前7時頃には、関東以東へ向けた空輸便行き集荷トラックが出発。陸便の中京以西は、営農販売事業本部などを経由し輸送します。

幸せを願う花 芸西村の「オキシペタラム」

～オキシペタラム～

南米原産の半つる性の草花で、和名の「瑠璃唐綿（ルリトウワタ）」にもあるように、葉や茎には柔らかな毛が生えていて、綿のように優しい手触り。季節や温度によって花色の濃淡は微細に変化し、咲き終わりには紫色へ変わりながら、花瓶などで冬季は2～3週間と長期間花を楽しむことができます。

芸西村を象徴する花

生産量日本一として、芸西村を象徴する花「オキシペタラム（通称：ブルースター）」。この地では昭和60年頃から栽培が始まり、現在は芸西支部園芸部研究会花卉部ブルースター部会の生産者8戸が3.4ヘクタールで栽培しています。

主な産地は、冬季を高知県、夏季を北海道や長野県。四季の移ろいとともに産地を変えて出荷され、促成栽培を行う同部会は冬春期の9月～翌6月までの全国出荷量の9割を占めています。

「ピュアブルー」、「エンジェル」、「おるきブルー」の3品種を主力に、青色の他に日本で唯一の白色の品種「エンジェルホワイト」も生産しています。

「全国どこの市場に聞いても〝オキシペタラムといったら芸西村〟と言ってもらえる。先輩たちのおかげでその名が通っていることを実感します」と話すのは、部会長の岡村和彦さん。延べ19アールのハウスで「ピュアブルー」を栽培して9年目になります。

青系品種の中でも、花弁が最も丸みを帯びた愛らしい印象と、発光するような鮮やかな青色が特長。

ピュアブルーより花弁が一回りほど大きな大輪系で、花色も濃い青色・白色が特長。

原種に比べ茎が太く水あげも良く、より丸みを帯びた花弁と透明感のある水色が特長。

（写真提供：芸西村）

世界へ向けた「ピュアブルー」の発信

「IPMエッセン」受賞

ドイツで開かれた世界最大級の国際見本市「IPMエッセン」で、平成23年に切り花部門の最優秀賞を受賞。平成24年の国際園芸博覧会「フロリアード」ではフロリアード優秀賞を受賞しました。

エリザベス女王からの手紙

平成30年には、イギリス王室の女王・故エリザベス2世の誕生日に、祝賀とPRを兼ねてオキシペタラムを贈呈。1カ月後にはイギリス王室からお礼の手紙が届きました。

幸せを願う花に託す夢

コロナ禍では部会の活動が思うようにできませんでしたが、近隣の宿泊施設などへオキシペタラムを提供し、PRを含めた県産花の推進活動も続けています。「今後は積極的に現地検討会や主要市場の関係者を交えた意見交換も行いたい」と、次の世代の育成も見据えて活動を考えている岡村部会長。「子どもが結婚する日が来るまで頑張って作り続け、結婚式では自分の作ったオキシペタラムを使ってもらえたらうれしいですね」と微笑み、幸せを願う花のオキシペタラムに託す夢を教えてくれました。

芸西支部園芸部研究会花卉部
ブルースター部会　部会長
岡村 和彦さん

サムシング・ブルー～幸せを願う花～

結婚式に花嫁が青色のものを身に付けると幸せが訪れるというヨーロッパの言い伝えから、ブライダルシーンでブーケや装飾でも人気のオキシペタラム。

ハサミで1本1本を丁寧に収穫。約50cmほどの長さに5輪付いていることが基準規格で、暑い時期には花の数が減りやすいが、冬季は比較的生育が良いとのこと。

〝扱いづらい花材〟から〝扱いやすい花材〟へ

「原種は今のものより花弁は細長く、茎も柔らかくてつるのように伸びます。直立に伸びる現在の品種よりも栽培管理の労力が必要でした」と、原種の特徴を話すのは安芸地区全域の花きを担当する営農指導員の大北成美さん。南米原産の珍しい花で、栽培開始当初は花の特性や栽培技術が不透明で模索の日々が続くなか、市場や生花店など販売側からも〝扱いづらい花材〟と声があり、部会員は原種を基に新品種の育種へ取り掛かることになりました。青い花弁の魅力を最大限に引き出す花形や、太くしっかりと直立する茎を目指し実証栽培を重ね、平成18年に「ピュアブルー」、翌年には「エンジェル」が誕生しました。

また、しおれの原因となる茎の切り口をふさぐ白い樹液への対策にも着手。試行錯誤を繰り返し導き出したのは、「切り戻した後に数パーセントの食塩水で洗い流す」処理方法。現在も市場を通じて生花店などにも情報提供しています。鮮度を保持した流通の実現から、評価は上がりアレンジや花束にも対応できる〝扱いやすい花材〟として、さらなる需要拡大につながりました。

出荷には空輸便も活用することによって遠隔地への短期間での輸送も可能に。海外コンテストへの出品など、積み重ねた受賞功績から現在はアメリカを中心に、中国やベトナムなど海外へも輸出されています。

茎を切るとあふれ出る白い樹液。

樹液はたわしで擦りながら除去し、水あげを行います。

安芸営農経済センター
営農指導課
大北 成美さん

1輪ごとに異なる性格

花色は寒さが増すごとに淡い水色から濃く鮮やかな青色へと変化します。「冬季の花色は日中の気温上昇で少し白交じりになり、きれいな青色がでません。朝日が昇るまでに収穫することを部会で決め、品質の維持に努めています」と話す岡村部会長。冬の早い日には、午前3時頃に前日に収穫した花の選別作業や樹液処理などの荷造りを始めます。その後、花が休眠中で青色が濃く出ているうちには収穫を終え、2日分をまとめて芸西集出荷場へ出荷します。

部会では、定植時期をずらすことで出荷期間の長期化を目指していて、かん水や追肥、ハウス内の温度管理など、栽培方法は各部員で異なります。「部員のハウスに行って、土の状態などを見ると、さまざまな気付きがありますね。花の状態は一定ではなく、毎年同じ栽培環境下でも作によりうまく開花しないものもあり、栽培方法のマニュアル化はなかなか難しい」と、オキシペタラムの性格は1輪ごとに異なると話す岡村部会長。オキシペタラムは生産者が少なく栽培技術の普及が難しい面もあります。「私も生産者から技術を教わることが多くあります。花が嫌そうな反応をしているけど原因が分からない…と悩む事もありますね」と、花の反応ひとつひとつを見て、対処法を考えると大北さんは話します。